

(国語科)

確かな読みの力を育てる指導法の工夫 ～物語文の読み取りを通して～

大阪市立喜連北小学校 研究推進委員会

1. はじめに

子どもが生涯にわたって社会の変化に主体的に対応して生きていくためには、思考力・判断力・表現力の育成が大切である。学習指導要領でも、各教科に横断した「言語力の充実」がうたわれており、日常の教育活動において、基礎的・基本的な知識・技能の習得、習得した知識・技能の活用、主体的に学習する態度を育てていく必要がある。

しかしながら、本校の児童の実態を見ると、文章を読み取る力や自分の思い、考えを表現する力の個人差が大きく、評価問題や大阪市の「国語のしんだん」においても問題文や文章を正しく読み取れていないため誤答になる傾向があった。その背景には、語彙力やコミュニケーション能力の不足があると考えられ、コミュニケーションや感性・情緒の基盤である言語に関する能力を一層高めることが求められる。

そのため、3年前から「読む力」を育て、読み取ったことを豊かに自己表現できる子どもを育てようと国語科に焦点をあて、研究主題を「確かな読みの力を育てる指導法の工夫」と設定し、実践研究を進めてきた。1年目は説明文の読み取りをし、2年目からは、物語文の読み取りを中心に研究をしてきた。3年目にあたる本年度も、引き続き物語文の読み取りを通して確かな読みの力を育てる研究を進めた。

2. 研究の内容

研究仮説として、

「一人学びを充実させ、伝え合う工夫をすることで、交流も豊かになり読みが深まる」を設定し、以下の視点と内容で実践と研究を深めていった。

(1) 研究の視点

① 「読み」の力を育てるための工夫

- ・一人学びの充実
「書き込みブック」やワークシートの工夫
- ・読みの力を育てる単元指導計画
- ・課題解決学習の構築
- ・音読形態の工夫

② 「伝え合う力」を高めるための工夫

- ・交流の場の工夫
- ・話型、聴型の指導、ハンドサインの活用

(2) 実践例

- 「動作化につなげる教具の活用で児童の音読を豊かなものにする」
アフリカ像の大型模型を使って動作化することで、サラダをかき混ぜる場面が力強く音読できた。(1年『サラダでげんき』)
- 「動作化を取り入れ、登場人物の気持ちや様子を想像して、読む力を高める」
ポイントとなる会話や動作を想像し、動作化することで登場人物の気持ちや様子を読み取る力が高まった。(2年『名前をみてちょうだい』)

○「書き込みブックの活用で一人学びを充実させる」

書き込みの少なかった「そうだったの…」を授業の柱の一つにした。書き込みブックの役割の一つは、前もって児童の読み取りを把握でき、授業の組み立てに活用できるということである。(3年『ゆうすげ村の小さな旅館』)

○「書き込みブックを生かした話し合い活動の工夫」

話し合いに参加しようとする気持ちを醸成し、話し合いの手順を理解させるためにプリントを作成し、身近な話題での話し合いで下地作りをした。書き込みブックと話し合いの手順をコラボしたワークシートや、話し合いの進め具合を知るチェックカードを活用することで話し合い活動の楽しさと手順が理解された。

(4年『世界一美しいぼくの村』)

○「ワークシートの工夫で一人学びと読みを深める」

読み取ってほしい部分を穴抜きにし、矢印を使い場面の出来事や流れを把握できるようにしたり、考えて書く所ではキーワードを与えたりすることで、主体的に学習できた。(5年『世界でいちばんやかましい音』)

○「読み取りにつまずきのある児童への学習支援」

ヒントカードを作成して活用する、毎時間一斉読みを取り入れる、朗読に友達との交流を取り入れるなどの手立てにより、ワークシートに書き込むこと、自分で意見をもつことができ、朗読への自信につながった。(6年『海のいのち』)

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

①「読みの力」を育てるための工夫

- ・書き込みブックの活用やワークシートの形式の工夫で、児童の一人学びが充実し、意欲的・主体的に授業に取り組む土台となった。
- ・初発の感想を大切にし、学習活動を見通せるように学習計画をたてた結果、課題解決に向けて主体的に取り組むことができた。
- ・音読のねらいに沿って音読形態や動作化を工夫したり音読の機会を増やしたりすることにより、読み取る力や表現力がついた。

②「伝え合う力」を高めるための工夫

- ・一人学びから全体交流 あるいは一人学びから少人数での交流そして全体交流という流れの学習で、話し合いの進め方プリントなど具体的な手立てにより、自信をもって意見を言える児童が増え、友達の意見をもっと聞きたいという意欲が高まった。
 - ・話し合い名人、聞き方名人、ハンドサインの活用は学習への参加意識を高め、わかりやすく話し、友達の意見をしっかりと聞き取ろうとする態度が育ってきた。
- 以上のように、一人学びを充実させ、伝え合う工夫をすることで、交流も豊かになり、読みが深まることが明らかになってきた。

(2) 今後の課題

- ・物語文での書き込みブックの効率的な活用、発達段階に応じたワークシートの工夫と、さらにノート指導についての検討をする
- ・交流の進め方ガイドや発表ボードなどの工夫を進め、児童の意見を取り上げたわかりやすい板書や音読・一人学び・交流に時間を確保できる授業構成の探求を引き続き行い、読みが深まる実践を進める。